

脱炭素

身近にできることから
始めてみませんか？

～地域金融機関による脱炭素化支援事業～

省エネに取り組み、
コスト削減と**CO₂削減**を実現！

脱炭素とは／

地球温暖化の原因となる
二酸化炭素等の排出量を
ゼロにする取り組みです。

ご利用の流れ

Step 1

地域
金融機関脱炭素の
取り組み状況を
簡単にお伺い
します。

Step 2

事務局

お電話による
事業説明、
適した専門家を
ご紹介します。

Step 3

専門家

現状診断、
削減計画策定等を
ご支援します。

※専門家の訪問は3回以上

Step 4

地域
金融機関必要に応じて融資を
検討・ご提案します。※審査の結果、ご希望に添えない
こともございます。

事業者のみなさま

地域金融機関と脱炭素や経営の専門家が、みなさまに合わせた、身近にできる取り組みをご提案
あわせて、補助金・助成金等の活用を検討・ご提案します。

※年度途中で事業終了となる可能性があります。

このような
お悩みがある方は **ぜひご相談ください！**
無理なくできることから一緒に考えます。

- ✓ 光熱費、燃料費が高いと感じている
- ✓ 省エネ型の設備更新・新規導入を考えている
- ✓ 何から始めていいかわからない
- ✓ 自社に合った取り組みを知りたい
- ✓ 身近にできる取り組みを知りたい 等…

脱炭素化で目指せること

光熱費・燃料費等の
コスト削減につながる生産性向上に
つながる企業の価値・
信頼度が上がる社会貢献に
つながる

身近に取り組むことができる脱炭素化 詳しくは裏面へ ➡

お問い
合わせ先

事務局／株式会社パソナ（受付時間 月～金 9:00～17:00）

TEL／03-6257-3871 FAX／03-6257-3872 E-mail／datsutanso@pasona.co.jp

本事業は、一般社団法人東京都信用金庫協会・一般社団法人東京都信用組合協会が、東京都の補助金を活用し、
取扱金融機関と連携して実施するもので、事務局運営を株式会社パソナに委託しています。<https://datsutanso-tokyo.jp/>個人情報等の
取扱いについて「地域金融機関による脱炭素化支援事業」のご利用にあたり、知り得た個人情報の取扱いに関しまして、下記のように利用させていただきます。何卒ご理解の程、宜しくお願ひ申し上げます。
●現状診断、削減計画策定、経営相談、融資相談等に対応するための資料として、事務局、中小企業診断士等の専門家および取扱信用金庫・信用組合の担当職員、東京都、東京都信用金庫協会、東京都信用組合協会が閲覧すること。

身近に取り組むことができる脱炭素化

一例

照明器具を白熱電球からLED電球に変える



省エネ量
4,200kWh/年

節約
122,700円/年

※条件:30本あたり/1日約8時間点灯した場合

ガス給湯器を高効率型に変える

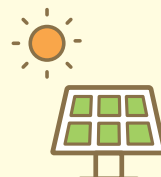


省エネ量
140m³/年

節約
26,900円/年

※条件:従来型を更新/1台あたり/1日約8時間稼働した場合

太陽光パネルを設置する



省エネ量
19,900kWh/年

節約
581,000円/年

※条件:発電システム容量20kW/設置面積:25m²/平均日射量は東京を参照

実例

1 契約も設備もルール作りも。多角的な提案で30%以上のコスト削減! 対策実施を見据えた、助成金の紹介もうれしい。

事業内容 エコマースによる通信販売

設立

2014年

従業員数

14名

取り組んだきっかけ

取扱商品が変化してきている中で、物流業務で配送の外注化を検討している。他方、倉庫、事務所の省エネについては、これまで取り組んだことはない。本事業では、特に、助成金についての情報を教えてもらいたい。

取り組みの内容

- ①照明設備のLED化更新
- ②電力契約の見直し
- ③電気給湯器、暖房便座等の運用改善

取り組みの効果

- ◎照明のLED化でCO₂排出量、コストを15%削減
- ◎契約の見直しで、さらに大きなコスト削減効果
- ◎電気給湯器等のコンセント機器の使い方、運用ルールの見直しで、無理なく脱炭素化実現

事業者から一言

これまで脱炭素化という視点で事業を見たことがなかったので、非常に参考になった。照明設備の更新のみならず、電力契約にも改善可能性が言及され、目から鱗が落ちる思いだった。

活用した補助金

クール・ネット東京、ゼロエミッション化に向けた省エネ設備導入・運用改善支援事業

削減量	1,148kg-CO ₂ /年
削減額	305,439円/年



現場巡回で改善項目を抽出。全方位から対策を立案するので、これまで気付かなかった改善策が見出されることも多い。

実例

2 脱炭素の切り口で現場調査。設備トラブルの要因究明! 新たな設備投資をせずに生産性向上!

事業内容 中食、食品製造

設立

2021年

従業員数

100名

取り組んだきっかけ

この一年間で自社ステーション数は急増。事業拡大の折、マンパワーが確保できず、脱炭素化対策に手が回らない。特に、夏期には製造工場内の保冷剤用冷凍庫のトリップ現象(ブレーカーが落ちること)が頻発しており改善したい。冷凍設備増強も視野に入れている。

取り組みの内容

- ①冷凍庫(蓄冷材凍結庫)の放熱促進
- ②局所空調ノズルの適正運用
- ③空調、冷凍設備の室外機洗浄

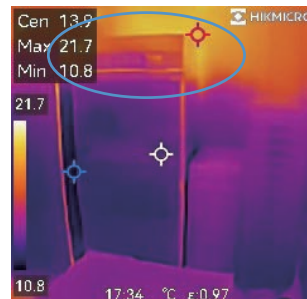
取り組みの効果

- ◎設備運用面の提案のみで電気代等を約4%削減
- ◎扇風機で気流を作り出し、設備トリップ回避
- ◎レンジフード周りの局所空調運用改善で、製造室内環境改善と共に脱炭素化実現

事業者から一言

事業拡大に伴う水光熱の変遷を確認できたのが印象的だった。また、製造室内の温度等の現状を実際に計測した上で、問題点を抽出し、改善策を立案していたので説得力がある。この事業の活用を取引先にもお勧めしたい。

削減量	5,898kg-CO ₂ /年
削減額	360,066円/年



凍結庫周辺をサーモグラフィ撮影。凍結庫上部の熱溜まりがトリップの遠因であった。



ぜひ、専門家と一緒にできることを考えてみませんか?